

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容

本校の教育実践のテーマ

『地域の課題に積極果敢に挑戦し、未来をひらき、支え続ける若い世代の育成』
～少子高齢化・人口減少・過疎化に挑戦する高校生～

1 ねらい

将来、日本各地で起こり得る少子高齢化・人口減少が、今まさに急速に進行している周防大島に位置する唯一の高校として、地域の課題に関する探究的な学習活動や地域への貢献活動を通して、これらの現代的課題の解決に向けて積極果敢に挑戦し、地域コミュニティの持続、活性化に寄与する志と実践力を育むことにより、地域の未来をひらき、人との絆をつなげ、広げる若い世代を育成する。

2 今年度実践内容

(1) 時代や地域のニーズに応える学科「地域創生科」での特色ある教育活動

過疎化や高齢化が進行する地域で、若者が生きていくための産業である「福祉」と新しい「ビジネス」の2つのコースで地域の活性化をめざして活動した。

福祉コース：「100歳プロジェクト」と名付けた取組を実施し高齢者とのふれあいを行った。マジックやフラを披露したり、レクリエーションを一緒に楽しむなどの交流活動を実施した。



ビジネスコース：地元を盛り上げるために

特産品を生かした商品開発を行い、地域行事「安下庄海の市」で試食販売を行った。模擬株式会社「島の幸」を立ち上げ、ネットショップで地域の特産品の販売を実施した。また、県や周防大島町の職員と本校の生徒が地域の集落点検を行い、生活状況の聞き取りや過疎地域の実態把握に努めた。連携している東和中学校でも本校生徒が開発した商品「タチドック」の販売を行った。



(2) ふるさとの誇りと愛着を育む教育活動の系統的・計画的な展開

学校設定教科「地域創生」(2・3年次)の開設にあわせ、「総合的な学習の時間」(1年次)について内容を見直し、「島がすき、学校がすき、そこで生きてる人がすき」をコンセプトとする「島・学・人プロジェクト」として体系化して、様々な活動を展開した。

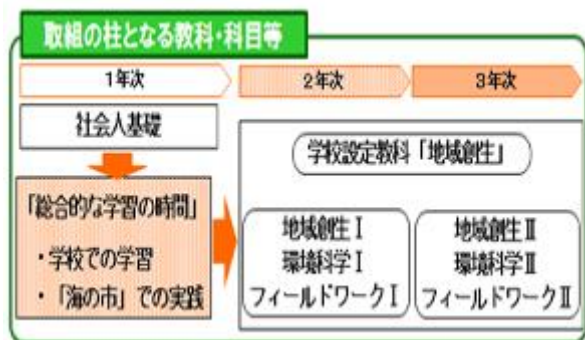
ア 「総合的な学習の時間」での取組

島や学校の魅力を調査・発信するとともに、島の起業家等との交流により、豊かな人間性・社会性を育成するための活動を行った。

イ 学校設定教科「地域創生」

地域での実践的活動を通して、地域経済・産業等の発展に寄与するとともに、環境と共生する持続可能な社会を築き、活力ある地域づくりに貢献する人材を育成している。

今年度、フィールドワークⅠの授業では、山口県庁の職員を招いて「県政出前トーク」を行い、山口県が抱える課題について学び、その上で地域の課題を解決しようという人材の育成に取り組んだ。また、2学期以降はコースに分かれて活動し、「食コース」では周防大島町が取り組む「ちょび塩」料理について学習を深めた。また、「文化コース」では周防大島町と姉妹島縁組みをしているハワイカウアイ島の文化を学び、レイ作りやフラに取り組んだ。フィールドワークⅡでは、フィールドワークⅠをさらに発展させ、アロハシャツの作成を行ったり、地域に残る「いのこ歌」や「わらべ唄」を学び、生徒が「わらべ唄」を作詞作曲するなど地域についての学習を深めた。



ウ 「安下庄海の市」への参加による地域貢献活動

「総合的な学習の時間」及び「地域創生」における学習の場、学習成果発表の場として、月に1回開催される地域行事を活用した。(各出店でのインタビューや「子ども夢広場」の企画・運営など)



エ 「すおうおおしまキレイな海岸」フォトコンテストの実施

スマートフォン等で撮影した美しい海岸の風景を投稿し、校内でコンテストを行った。今年度は地域の写真家西山喬さんから写真の撮り方を学んだ上で実施し、山口県主催「やまぐちキレイな海岸フォトコンテスト」に応募したところ景観部門で入選を果たした。



オ 政策アイデアコンテスト

夏休みの課題として、少子・高齢化、人口減少、人口流出が課題となっている周防大島の活性化をテーマにアイデアを募集し、提出された課題の中からいくつかの案を統合するなどして、山口県が実施する政策アイデアコンテストに応募した。その結果、2年次生の提案した「周防大島“まるまるかぶりつき”プロジェクト 周防大島を、まるまる“観光農園、観光漁場”にして、観光客を呼び込む！」が高校生以下の部最優秀賞を、1年次生の提案した「周防大島型スローツーリズム～『しまタビイズム』で定住人口増加へ～」が入賞を果たした。さらに、2年次生の案は中国地区予選を突破し、内閣府主催の「地域創生☆政策アイデアコンテスト2016」で日本政策投資銀行賞を受賞した。



カ 「山口 ことばの物語」

地域についての学習の一環で周防大島出身の宮本常一と、星野哲郎をテーマに、フィールドワークの授業で取り組み、NHKの「山口 ことばの物語」に応募し、本校からは2名の生徒が取り上げられた。郷土の偉人の言葉を通じて、郷土を見つめ直す視点を身につけることができた。

(3) 世界の難民の子どもたちに子ども服を届ける古着回収活動

株式会社ユニクロが実施している取組に参加し、世界中の難民の子どもたちのために子ども服回収活動を実施した。地域の小中学校をはじめ、多くの人々から昨年の取組を上回る計2143着の子ども服を回収することができた。体育館のフロアいっぱい子ども服を見て、生徒は世界とつながり、社会の役に立っている自己を実感できたと考えている。



3 成果と課題

本校には島内、島外そして全国から生徒が入学している。本校を第一志望として、強い期待をもって入学してくる生徒もいれば、地元の第一志望の高校に入学できず、本校で新しい一歩を踏み出そうとしている生徒もいる。こうした多様な生徒たちが、島や学校での生活を一日でも早く肯定的に、前向きに受け止めるようになるためには、周防大島のことを調べ、好きになり、その魅力を全国に発信していくことが大切だと考え、地域と協働した活動に取り組んでいる。

今年度は、政策アイデアコンテストに向けた取組を進めることで、地域の抱える課題について生徒が考え、提案を行うなど、地域貢献を積極的に行う姿勢を身につけた。

また、昨年度から実施している難民への不要服の提供活動（“届けよう、服のチカラ”プロジェクト）では、さらに活動を拡充させたことで、生徒は地方からでも世界に貢献できることを学ぶことができた。

学校設定教科「地域創生」の科目である「フィールドワークⅡ」も今年度から始まり、前年度までに「フィールドワークⅠ」で行った地域に根付いた学習を発展させることができた。

こうした取組を展開する中で、生徒たちは自分たちにできることや地域の期待を実感しており、自己肯定感・自己有用感の高まりなど、意識の変化が見られるようになった。部活動も活性化してきており、生徒が島での生活、学校での生活などを前向きに受け止め、積極的にチャレンジしているという意識も広がっており、こうした生徒の変化は地域との取組の成果であると実感している。

今年度本校は県内の公立高校では初めて、コミュニティ・スクールに指定されたところであり、今後は、コミュニティ・スクールの仕組みを生かしながら、地域や学校が抱える課題を地域の方々と共有し、今以上に地域に存在感のある学校づくりを進めていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）